Salzburg Festival 2020

©SF/Kolarik

ザルツブルク音楽祭は 1920 年から創立 100 周年を迎えます

オーストリアの地に世界的芸術の中心を創るという夢は、その創立の父といえる劇作家のフーゴ・フォン・ホフマンスタール、劇場の天才マックス・ラインハルト、そして作曲家のリヒャルト・シュトラウスにより始められました。それはフーゴ・フォン・ホファンスタールがザルツブルクを「ヨーロッパの心の中心中の中心」と比類なく美しく表現したように、大都会の娯楽ではなく、ザルツブルクにこそ、真の芸術の中心をと願ったのです。

ザルツブルク音楽祭は、第一次世界大戦の殺戮後の「最初の平和プロジェクトの一つ」（マックス・ラインハルト）であり、ヨーロッパのハプスブルク帝国から小国となったオーストリアの明確な芸術的声明でもありました

オペラと演劇のベストを目指すことが、彼らが高く掲げた方針でした。

平和のための芸術とプログラムのクオリティ　－　この二つの創立以来の理想を私たちは常に持ち続けてきました。

1920 年に一つの演劇の公演で始まったザルツブルク音楽祭は、今や世界で最大のクラシック・フェスティバルになりました。2019 年には、43 日間に 16 の会場で、計 199 回の公演を行い、78 ヵ国、そのうち 40 ヵ国はヨーロッパではない国々から観客が訪れました。

音楽には国境がなく、まさに記念の年には世界中から皆様を迎えたいと願っています。マックス・ラインハルトは、「祝祭」の成功には観客、聴衆がいかに大切であるかを知っていて、「舞台上だけでなく、客席の観客もベストでなければならない」と述べています。

この意味におきまして皆様ご一緒に、2020 年をザルツブルク音楽祭の特別の年としていただきたく、ご招待申し上げます。

The Directorate of the Salzburg Festival: Lukas Crepaz, Helga Rabl-Stadler, Markus Hinterhäuser
©SF/Gorges

世界の大劇場　–　ザルツブルク音楽祭１００周年

祝祭劇場を建てる財力がなく旧市街の一角で一つの演劇の公演で始まったのが、今日では世界の最も重要なクラシックのフェスティバルとなりました。

200 回の公演を 16 の会場にて 44 日間で行い、80 カ国から、そのうち 40 カ国はヨーロッパ以外の国から観客が訪れ、2020 年は 100 周年を迎えますが、この数字を見ただけでも、この百年の間にいかに多くのことが変化してきたかが分かります。

Max Reinhardt & Hugo von Hofmannsthal ©ASF/Ellinger

ザルツブルクの最も著名な息子、つまりヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトを讃えて、定期的に音楽祭を行いたいという思いは、1920 年にザルツブルク音楽祭が創立される随分前からありました。しかし、このアイディアは第一次世界大戦が終了する頃になって、あるグループにより、ようやく具体的になってきました。それは、演出家で劇場人のマックス・ラインハルト、劇作家のフーゴー・フォン・ホフマンスタール、そして作曲家のリヒャルト・シュトラウスが、この計画と新たに取り組んだのです。

これらの創立者達は、戦後の混乱に再び秩序を取り戻そうとしました。オーストリアの君主政が崩壊し、劇場は公共の施設として、伝統、国のアイデンデンティティ、共同体として寄与する使命が生まれました。祝祭としの音楽祭は、アイデンティティの危機や、個人の、また民族の価値の喪失に反するプロジェクトです。この志高いプロジェクトを実現するのに最適の場所として、創立者達は、風景も建築も魅力的なザルツブルクと思ったのでしょう。「ザルツブルクはヨーロッパの心、中心中の中心」とフーゴー・フォン・ホフマンスタールが比類なき美しい賛辞を書いています。

Jedermann 1920 ©ASF/Ellinger

1920 年 8 月 22 日、フーゴー・フォン・ホフマンスタールの「イェーダーマン」がマックス・ラインハルトの演出で今日でも行われているドーム広場で初めて上演されました。それ以来この「金持ち男の死までの劇」は、1922 年から 1925 年までと 1938 年から 1945 年までの 2 回の中断以外は、毎年プログラムに登場し、ザルツブルク音楽祭のトレードマークとなっています。

翌年の 1921 年には、すでにオーケストラや室内楽のコンサートが追加され、1922 年にはモーツァルトのダ・ポンテのオペラ 3 部作、「ドン・ジョヴァンニ」、「フィ

ガロの結婚」、「コジ・ファン・トゥッテ」が上演され、今日ある音楽祭の構造が出来がったのです：オペラ、演劇、そしてコンサート。そしてフーゴー・フォン・ホフマンスタールが創立声明に書いているように「全てを最高に」。今日では「ベスト」と言い換えられますが、クオリティが創立時からの注文でした。

その後 1924 年には財源の欠乏から音楽祭は中止を余儀なくされ少し後退しましたが、またすぐに継続し続けました。開催期間や会場を増やしたりと定期的に新しいことを取り入れてきました。1925 年には、ザルツブルク音楽祭のキャスト表に初めてウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の名前が掲載されました。それからウィーン・フィルは約 2200 回のオペラ公演と 800 回のコンサートを行い、ザルツブルク音楽祭の音楽の中心となっています。

Der Rosenkavalier 1961 © ASF/Ellinger

1933 年から 1937 年の間は、ザルツブルク音楽祭はオーストリアの国と文化の独立のシンボルでした。アルトゥーロ・トスカニーニやブルーノ・ワルターのような芸術家たちは、芸術的、イデオロギー的に"反バイロイト"として、またその当時ドイツをすでに統治していたナチに対抗して、ザルツブルク音楽祭の国際化に尽力したのです。夏にはザルツブルクは国際的ハイソサエティの出会いの場となったのです。

1938 年にはオーストリアがヒットラーのドイツに併合され、音楽祭はナチの文化政策で変更を強いられました：多くの作曲家や作品が上演を許されず、芸術家たちは遠のき、または活動できなくなっていました。1944 年にヒットラー暗殺事件の結果、音楽祭は全くの中止となってしまったのです。

Carmen rehearsal with Herbert von Karajan 1966
© ASF/Ellinger

しかしその後小さな奇跡が起こりました：ヨーロッパでの終戦後のたった 3 か月後 1944 年の夏に、アメリカ進駐軍の支援を得て、ザルツブルク音楽祭は再開したのです。

町は爆撃により大きな被害を受けていて、兵士や難民で町は溢れかえっていましたし、必要とされる食料にも事欠いていたのです。しかしそこでまた、第一次世界大戦後のような政治的ミッションが音楽祭に効力を発揮しました：陸軍大将マーク・クラークは 1955 年の国際条約締結までザルツブルクを統治したアメリカ進駐軍の最高司令官でしたが、ザルツブルク音楽祭の再開を「文化の自由の再生を祝う式典」とみなし、彼のオーストリアでの最初の公式式典への出席としたのです。

1948 年には、今日までザルツブルク音楽祭と深く結びついている一人の男が前面に出てきました、その名前はヘルベルト・フォン・カラヤン。ザルツブルク生まれで、今日の祝祭区域から数百メートルも離れていない家に生まれ、1933 年から 1989 年まで、何と 247 回のオペラと 90 回のコンサートを指揮し、14 のオペラを自ら演出しました。カラヤンは音楽の分野に、そしてその国際化に重点を置き、質の高い世界的スターをザルツブルクに集め、また観客も世界中からやってきました。1960 年新しい祝祭大劇場が落成しましたが、カラヤンはそのコンセプトに大きく関与しました。1967 年には復活祭音楽祭が、1973 年にはザルツブルク聖霊降臨祭音楽祭が設立されました。ヘルベルト・フォン・カラヤンはマルチメディアの音楽への活用の発展に大いに寄与し、彼は現代的手段で世界中に新しい観客層を獲得できることを、他のどの芸術家よりも早く知っていたのです。

ヘルベルト・フォン・カラヤンが 1989 年にヴェルディの「仮面舞踏会」のリハーサル中に亡くなり、音楽祭はそのリーダーを失い、真空状態となりましたが、それは徐々に埋められて行かねばならなかったのです。

ジェラール・モルティエが芸術監督に就任し、権威と感動的な情熱でもってザルツブルク音楽祭を近代化し、若返らせることを使命としました。現代音楽やクラシック・オペラの前衛的演出で、劇場にアクセントを与え、新しい観客をザルツブルクに呼び寄せました。

この 100 年の歴史の中で、当時の芸術監督ペーター・ルジツカに感謝する特別な年が 2006 年でした。ザルツブルク音楽祭はヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトの生誕 250 年を、モーツァルトの 22 の全オペラ上演で祝い、ザルツブルクはモーツァルト解釈の世界首都として国際メディアから大きな反響を、そして感動した観客からの賛同を得ました。

音楽祭の歴史上、高い芸術と最高の伝統の中、マルクス・ヒンターホイザーが 2017 年に芸術監督に就任しました。「ザルツブルク音楽祭は特別なことの爆心地でなければならない」が彼の信条です。単に催しを並べるのではなく、できるだけ著名なキャストでの公演は、特別な芸術的状況を創り出し、単なる楽しみだけでなく、じっくりと考えることへと誘うのです。これは、ザルツブルク音楽祭は次の世紀への使命と力の源であるという、マックス・ラインハルトとフーゴー・フォン・ホフマンスタールの創立の思いでもありました。

Wiener Philharmoniker with Riccardo Muti 2019 © SF/Borelli

幸せな共存

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団はザルツブルク音楽祭のアイデンティティの一部である。そしてまた、ザルツブルク音楽祭も、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のアイデンティティの良き一部である。このオーケストラが、これまでどれだけザルツブルクに登場し私達の文化の重要な部分になっているかを考えると、"ザルツブルク・フィルハーモニー管弦楽団"と言っても良いくらいである。

1842 年は偶然にも、ウィーンとザルツブルクにとって、音楽界の重要な新しい始まりの年となった。オットー・ニコライが宮廷歌劇場管弦楽団からシンフォニーを演奏するオーケストラ、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団を創立した年である。ザルツブルクでは、当時は無名の小さな町、特に文化面で乏しい町となっていた市民が立ち上がり、それまでウィーンでの名声ばかりだったモーツァルトの生まれ故郷のザルツブルクに記念碑を建立した年でもあった。この記念碑はローマ遺跡の上に建てられ「ここに幸福が住まう」と記されているが、この年は良い前兆であった。

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の歴史の中で、ザルツブルクは特別に位置づけられている： 1877 年、ウィーン以外ではじめて演奏会を行ったのが、ここザルツブルクであった。その後 1910 年までザルツブルクの音楽祭での中心であった。1920 年以降は財政難の祝祭劇場共同体のために、ウィーンと南アメリカでチャリティーコンサートを開催し、1922 年にはザルツブルク音楽祭で初めてオペラを演奏した。1925 年以降ザルツブルクはこのオーケストラの年間スケジュールの夏の定住地となっている。

第二次世界大戦中は、オーケストラはザルツブルクとの連帯の証として、1940 年の音楽祭が開催されなかった時も、自発的にザルツブルク・コンサート・チクルスを開き、その継続を守ったのである。

特に感動的だったのは、リヒャルト・シュトラウスの臨席の下でのウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の最後の登場であった。1944 年 8 月 16 日、彼のオペラ「ダナエの愛」のゲネプロの後、彼は「皆さん、より良い世界で再び会えますように」との言葉を残しオーケストラに別れを告げた。この願いは残念ながら叶えられなかった。ヒットラーの暗殺計画挫折後、音楽祭は中止となってしまった。初演は作曲家の死後、ザルツブルク音楽祭で 1952 年に実現した。

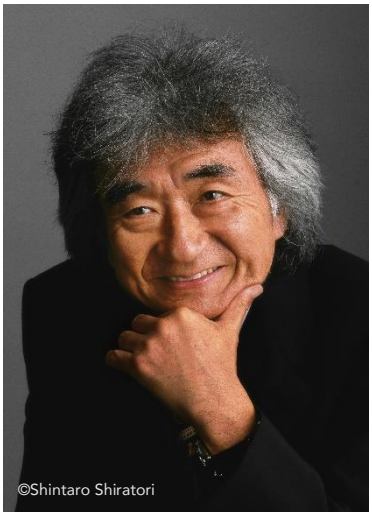
2250 回以上のオペラ公演、800 回以上のコンサートをウィーン・フィルハーモニー管弦楽団はこれまでのザルツブルク音楽祭で演奏してきた。ということは、ザルツブルク音楽祭が世界最高の音楽祭という名声は、当然のことながら彼らのおかげといえる。ウィーン・フィルは、ザルツブルクが有名になるための音楽的水準を最初から持っていて、最高の指揮者をザルツブルクに呼び、また音楽祭も最高の指揮者を提供し、そして多くの新しい芸術的な出会いも可能にしてきた。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団なしには、ザルツブルクでの祝祭音楽祭はなかったであろうし、もしあったとしても、今の「ザルツブルク音楽祭」ではなかったであろう。

Artists about the Salzburg Festival

"Every artist dreams of one day performing at the prestigious Salzburger Festspiele. For me to debut there this past summer in Mozart's *Idomeneo* with Peter, Teodor and the whole team was definitely one of the most important moments in my career. The whole experience was a true pleasure: open, welcoming, and inspiring- I felt like being a part of a big family. Thank you!" – Ying Fang, soprano

"The Salzburg Festival is one of the most important classical music festival in the world. It was an unforgettable experience for me because it gave me the fantastic feeling of being able to combine with the greatest musicians of today and those of the past. I am honored to have participated in the Salzburg festival in Aida and in Ernani and I hope to return soon.
Best wishes for the 100th anniversary of the Salzburg festival!", says Vittoria Yeo, soprano.

“Congratulations on the 100th anniversary of the Salzburger Festspiele. We still have a vivid memory of the NHK Symphony Orchestra performing at the Felsenreitschule in the summer of 2013. It is quite an honour and privilege for the orchestra and its members that we became part of the festival of such a long-standing history and tradition. We wish you further prosperity.” Yoshinori Nemoto, chairman NHK Symphony Orchestra, Tokyo



“My Salzburg festival time was like a dream. I learned so much and I enjoyed so much.” Seiji Ozawa, conductor

Selected Awards

Musical America

Celebrating its centennial next summer, the Salzburg Festival has been chose Festival of the Year for the 2020 Musical America International Directory of the Performing Arts. Only once before has an institution, rather than an artist, been chosen for MA's "Of the Year" honor, and that was in 2000, when Carnegie Hall, celebrating its centenary, was deemed " Concert Hall of the Century" MUSICAL AMERICA, October 2019

Opera Award

Since 2012 the „International opera Award" awards the best of the best in the classical world. It has been called "Oscars of the Opera". In 2013 the Salzburg Festival won the "International Opera Award" in the category "Best Opera Festival".
In 2014, the production "Norma" was selected as winner in the category "best opera production".

Opernwelt – Performance of the year

"Salome" performed at the Salzburg Festival has been voted "Performance of the year 2019" by the critic survey of the magazine "Opernwelt"; Romeo Castellucci provided the best stage-direction and stage design, and the Lithuanian soprano Asmik Grigorian in the title role was voted "Singer of the Year".

ザルツブルク音楽祭 2020

2020 年 7 月 18 日 –　2020 年 8 月 30 日

200 回公演を 44 日間に 16 会場で

オペラ

5 作品　新演出

2 作品　 再演

1 作品　コンサート形式の上演

演劇

イェーダーマン • フ―ゴ・フォン・ホフマンスタール

5 作品新演出– その内の 1 作品は初演

演劇-リサーチ

朗読会

コンサート

オーバーチュア スピリチュエル

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

ゲストのオーケストラ

„その時代“-シリーズ

室内楽コンサート

リートの夕べ

ソリスト・コンサート

モーツァルト-マチネ

カメラ―タ・ザルツブルク

若い歌手のプロジェクト

青少年のため

子供のオペラ

オペラキャンプ

青少年の予約コンサート

若い友達

ジーメンス>子供>フェスティバル

ザルツブルク音楽祭と劇場児童合唱団

特別コンサート

記念の年にプログラムの枠を拡張

Anna Netrebko in La Traviata ©Klaus Lefebvre

Mitridate, re di Ponto ©Klaus Lefbvre

Vittoria Yeo and Ekaterina Semenchuk in Aida ©SF/Ritterhaus

ザルツブルク州展覧会　２０２０年
「世界の大劇場　－　ザルツブルク音楽祭 100 周年」

ザルツブルク音楽祭と共同制作でザルツブルク博物館

場所：　新レジデンツ
展覧会面積:　1.800 m²
期間:　2020 年 8 月 25 日から 10 月 31 日

ザルツブルク州での展覧会「世界の大劇場　－　ザルツブルク音楽祭 100 周年」は、世界で最も重要な音楽祭のひとつに数えられるザルツブルク音楽祭の歴史から現在までの発展、そして未来への展望も紹介する展覧会です。

ザルツブルク州での展覧会は、サルツブルク博物館の新レジデンツで開催され、ザルツブルク音楽祭との出会いの場となります。様々な説明、演出、催し物で、訪れる方々が体験、参加ができ、個人の思い出の空間も提供します。また音楽祭を様々な展望から検討し、組織として、また芸術的観点から、どのような貢献ができるのか、多くの声を取り上げ展開します。

ザルツブルク州での展覧会は、4 つの章、分野から構成されます：

第 1 章　－『大映画館』－　映像からのアプローチ

ザルツブルク州展覧会の訪問者の皆様は、まず「柱の間」で映像の出迎えを受け、ザルツブルク音楽祭の歴史へと誘われます。ORF 制作のドキュメンタリーで、まず年代順にザルツブルク音楽祭の歴史を創立からご案内します。

第 2 章　－　「アルヒーフ」―　ザルツブルク音楽祭 100 周年

百科事典のように、ドキュメンタリーと資料、数字や事実、音源や写真、言葉や歴史、ザルツブルク音楽祭の人々やその発展のコレクションです。この章はこの展覧会の中心で、1920 年から 2020 年までの音楽祭の歴史 100 年を語ります。
写真、批評、出版物、スケッチやドキュメンタリーの歴史的アルヒーフは、舞台衣装、舞台装置、また舞台家具などの小道具による立体的資料や音源によるサンプルや映像と音の記録でより豊かな展示になります。100 の展示品が音楽祭の 100 年を代表します。

第 3 章　－　「対話」による出会い

第 3 章は、ウィーン・ユダヤ博物館、ウィーン劇場博物館、ザルツブルク文学アルヒーフ、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団と、また国際的に著名な芸術家たちと対話をしながら巡って頂きます。それぞれがザルツブルク音楽祭についての展望を示し、またその権威ある知識で、その芸術的関与について説明します。

第 4 章　－　オン・ステージ：舞台としての博物館

ザルツブルク州展覧会の第 4 章は、ザルツブルク博物館の「アート・ホール」が舞台に変わります。展覧会の会期中 2020 年 8 月 25 日から 10 月 31 日まで、特に 2020 年の夏の音楽祭の間は公演会場となり、同時にザルツブルク音楽祭の歴史全体のコンセプトの舞台となります。ここで芸術家たち、舞台上と舞台裏の人々、観客が一体となれます。映像プログラム、対談、モードショーなど多くの催し物シリーズが予定されています。特に博物館は広範囲な青少年プログラムの舞台にもなります。

ザルツブルク音楽祭のメイン会場

祝祭大劇場、モーツァルト・ハウス、フェルゼンライトシューレと 200 メートル離れたドーム広場、そしてコレギーエン教会が祝祭区域である。1606/07 年に大司教ヴォルフ・ディートリヒがここに厩舎を建て、1662 年には冬の乗馬学校が拡張された。19 世紀には騎兵隊兵舎として使われていたが、1925 年からザルツブルク音楽祭が徐々に使うようになった。

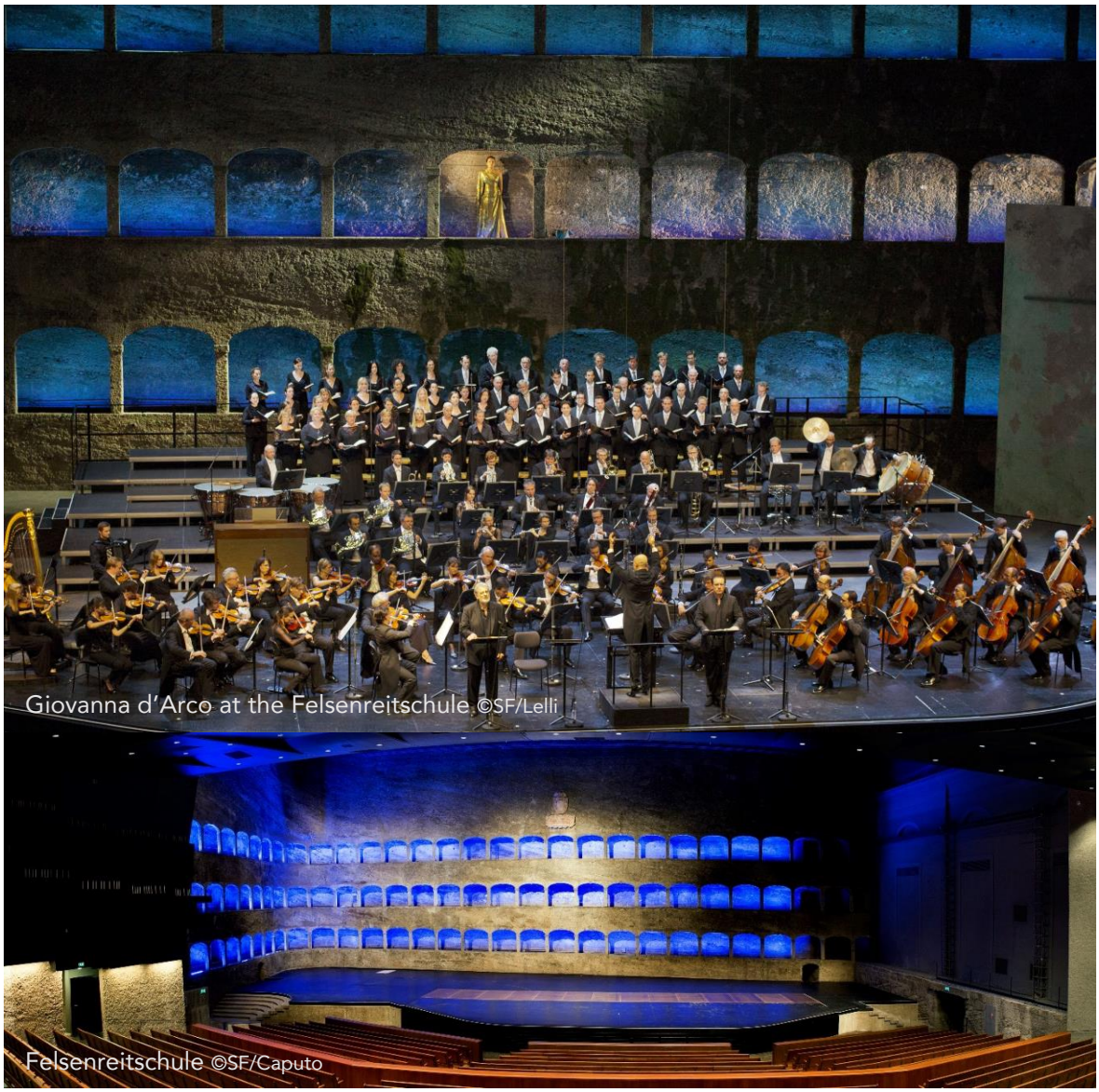
ザルツブルク音楽祭の公演は、毎年 10 以上の会場で開催されるが、ザルツブルク旧市街の中心に 3 つのザルツブルク音楽祭のメイン会場がある：フェルゼンライトシューレ、モーツァルト・ハウス、祝祭大劇場。

フェルゼンライトシューレ

夏の乗馬学校またはフェルゼンライトシューレが、劇場に変わったのはマックス・ラインハルトのアイディアに遡るが、17 世紀の前半には、この場所はドーム建設のための採石場となっていた。1693 年にはバロック建築家のヨハン・ベルンハルト・フィッシャーの設計で 3 層の 96 のアーチが採石場の岩盤の中に作られ、乗馬と動物の戦いの観客席となっていた。

1926 年にフェルゼンライトシューレは初めて、ザルツブルク音楽祭でマックス・ラインハルトの演出の会場となった。最初のオペラ公演は、1948 年にヘルベルト・フォン・カラヤン指揮で、フェルゼンライトシューレで行われた。

フェルゼンライトシューレの客席数は 1409 席、映画「サウンド・オブ・ミュージック」でも有名になった。


Giovanna d'Arco at the Felsenreitschule ©SF/Lelli

Felsenreitschule ©SF/Caputo

モーツァルト・ハウス

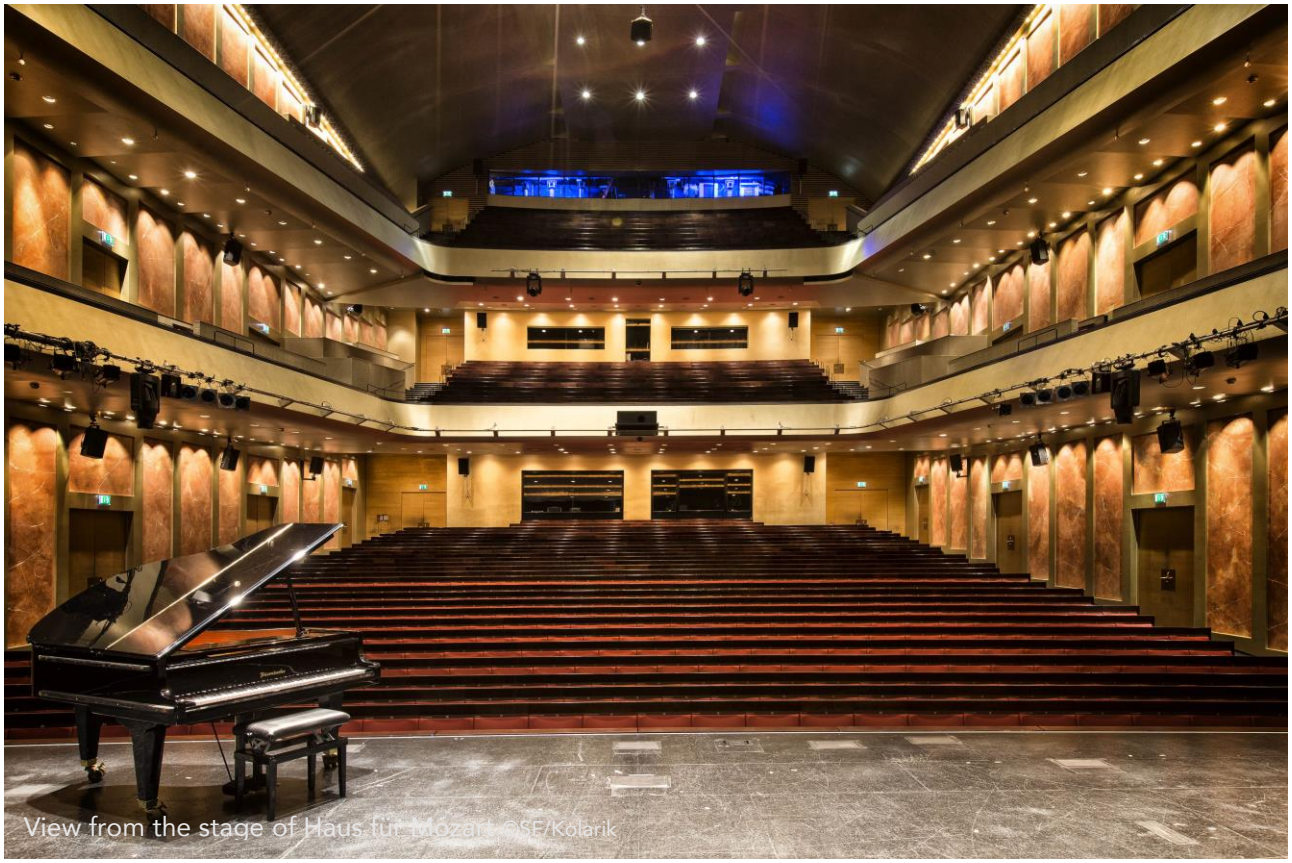
1925 年“大きな冬の乗馬学校”の敷地に仮設の祝祭劇場が、ザルツブルクの世界の大劇場としてオープンした。1926 年にはすでに最初の改修がクレメンス・ホルツマイスターにより始まり、1927 年には改装されオペラが上演されるようになった。ベートーヴェンの「フィデリオ」が 1927 年に、ここでの最初のオペラとして上演された。

後の「祝祭小劇場」は、その後 1937 年（客席を 180 度回転）と 1962 年/63 年（客席からの視界と音響条件の改良）など数多くの改修を重ねた。

ザルツブルク音楽祭は、モーツァルトのオペラ作品の全てを計算に入れ、最良の音響で、客席のどの席からも良く見えるような「モーツァルト・ハウス」を創る計画を長年温めていた。

そしてモーツァルトの生誕 250 周年記念の年、モーツァルト・イヤーに、ついに「モーツァルト・ハウス」が落成し、「フィガロの結婚」（演出：クラウス・グート、指揮：ニコラウス・アーノンクール）で 2006 年 7 月 26 日に柿落しを祝った。

モーツァルト・ハウスは 1495 の座席と 85 の立見席、合計 1580 席を有す。



View from the stage of Haus für Mozart. ©SF/Kolarik

祝祭大劇場

かつての大司教の厩舎の跡地に祝祭大劇場を建設するという計画は、まず建築家クレメンス・ホルツマイスターの設計により進められ、ヘルベルト・フォン・カラヤンは特に劇場舞台のコンセプトを建設計画の段階より示唆した。費用も苦労もいとわず、300 年前の宮廷厩舎とメンヒスベルクの間にオペラ上演の舞台のある劇場が落成したのだが、50 年後でもその舞台技術機構は国際的に最高の水準である。1956 年秋から 1960 年の初夏まで、ここに十分な劇場スペースを得るために 55,000 ㎥の岩盤が吹き飛ばされた。この建設費の大部分は政府の予算で賄われ、よって祝祭大劇場のオーナーはオーストリア共和国である。

祝祭大劇場は、1960 年 7 月 26 日にリヒャルト・シュトラウスの「ばらの騎士」、指揮ヘルベルト・フォン・カラヤンで落成した。客席はほぼ正方形で、適度の段差があり、舞台の横幅は約 35 メートル、音響は理想的で、座席数は 2179 席ある。

Großes Festspielhaus ©SF/Kolarik

ヘルガ・ラブル＝シュタドラー
ザルツブルク音楽祭　総裁

ヘルガ・ラブル=シュタドラーは 1948 年にザルツブルクに生まれ、1970 年に法学博士号を取得し、同年ウィーンにてジャーアリストのキャリアをスタートさせる。まず「ディ・プレッセ紙」と「ウィーク・プレッセ紙」で、その後「クリア紙」にて。1978 年にザルツブルクに戻り、母親のファッション・ブティックの共同経営者となる。1985 年にはザルツブルク産業経済会の初の女性副会長となり、1988 年には会長に就任する。並行して 7 年間はオーストリア国民党の国会議員を務め、1991 年から 1994 年までは党首代理であった。1994 年 11 月 11 日、ザルツブルク音楽祭の総裁に任命され、全ての政治的役職を辞した。彼女が総裁に就任して以来、支援組織に大成功をもたらし、音楽祭の会場の大々的改修や近代化が推進された。

マルクス・ヒンターホイザー
ザルツブルク音楽祭　芸術監督

マルクス・ヒンターホイザーはラ・スペツィア(イタリア)に生まれ、ピアノをウィーン国立音楽大学とザルツブルクのモーツァルテウム大学で学ぶ。

ピアニストとしてのマルクス・ヒンターホイザーは、ソリストとして、また室内楽奏者として世界の主要なコンサートホールや国際的に著名なフェスティバルで演奏している。カーネギーホール、ウィーン楽友協会、ウィーン・コンツェルトハウス、ミラノのスカラ座など。最近のマルクス・ヒンターホイザーはルイジ・ノーノ、カールハインツ・シュトックハウゼン、モートン・フェルドマン、ジョルジュ・リゲティなどの現代音楽の演奏に焦点を当てている。ラジオやテレビ出演も多く、アーノルド・シェーンベルクのピアノ全曲など録音も多く。アルバン・ベルク、アントン・フォン・ヴェーベルン、モートン・フェルドマン、ルイジ・ノーノ、ジャチント・シェルシ、ガリーナ・ウストヴォーリスカヤ、ジョン・ケージの作品もＣＤ録音している。クリストフ・マルターラー、ヨハン・シモンス、クラウス・ミヒャエル・グルーバーによる音楽劇プロダクションにも繰り返し参加している。

マルクス・ヒンターホイザーは、ウィーン芸術週間の芸術監督を 2014 年から 2016 年まで務めた。2016 年 10 月よりマルクス・ヒンターホイザーはザルツブルク音楽祭の芸術監督であるが、就任後の大成功により既に 2026 年まで契約が延長されている。

©SF/Zeuner

ザルツブルク聖霊降臨祭音楽祭

2020 年 5 月 29 日―6 月 1 日

時代の色

ポーリ―ヌ・ヴィアルド＝ガルシア（1821 年―1910 年）

ポーリーヌ・ヴィアルド=ガルシア、歌手、ヨーロッパの音楽伝道師、素晴らしいピアニスト、作曲家の生涯を、ザルツブルク聖霊降臨祭音楽祭は、2020 年のプログラムの中心とする。

19 世紀以前は、主に男性とカストラートが優れた芸術家として音楽社会に影響を与えていたが、19 世紀の始めからは、この役目を女性がだんだんと担うようになってきた―“ディーヴォ”が“ディーヴァ”になってきた。

「19 世紀の啓蒙主義が脚光を浴びるようになると、絶対君主制時代のこれらの奇妙にゆがめられた若い男性から、新しい神性、プリマドンナへと変わっていきました。この頃から、それまで貴族社会で愛されてきた芸術家、カストラートが急に不自然と思われるようになり、女性の芸術家たちが、ポスト革命的な市民社会でより良い地位を占めるようになってきました。女性は、作曲家の意欲を駆り立てる新しいミューズとなり、劇場のキャスト、報酬に関わるレパ―トリー政策にも影響を与えるようになり、そして女性芸術家たちは社会的にも大きな影響を与えるようになったのです。」とザルツブルク聖霊降臨祭音楽祭の芸術監督**チェチーリア・バルトリ**は語った。

ザルツブルク聖霊降臨祭音楽祭 2020 の中心はガエターノ・ドニゼッティのオペラ・ブッファ「ドン・パスクワーレ」。チェチーリア・バルトリが、19 世紀半ばにポーリーヌ・ヴィアルドが歌ったノリーナ役を歌う。「私が内的にとても愛しているオペラ「ドンパスクワ―レ」を初めて歌うことをとても楽しみにしています。このたび私が歌うノリーナの役のヴァ―ジョン、ヴァリエーション、カデンツァ、音楽的挿入は、1845 年にサンクトペテルブルクの公演でポーリーナ・ヴィアルドが歌ったノリーナ役に遡ります。オーケストラは歴史的古楽器で、これまでザルツブルクでベリーニやロッシーニですでに上演してきたサウンドを作り上げます。」と、ザルツブルク聖霊降臨祭音楽祭の芸術監督**チェチーリア・バルトリ**は語った。

*エコール・クラッシック*は土曜日にモーツァルテウム財団の大ホールで行われる**アリアのコンサート**で、ポーリーヌ・ヴィアルドへのオマージュとして、アリアとロッシーニ、マイヤーベア、グノー、ヘンデルのオーケストラ作品が演奏される。ジャンルーカ・カプアーノ指揮、モナコのレ・ミュジシャン・ドゥ・プリンス演奏、メゾソプラノのヴァルドゥーイ・アブラハミアンが歌い、チェチーリア・バルトリがゲスト出演。

土曜の夜の**宗教音楽のコサート**は、ガブリエル・フォーレのレクイエムがフェルゼンライトシューレで演奏される。フォーレはポーリーヌ・ヴィアルドの娘マリアンヌと恋愛関係にあった。ポーリーヌ・ヴィアルドはすでに引退した後、1869 年に一度だけまた舞台に戻ってきたが、それは作曲家のたっての願いで、ヨハネス・ブラームスのラプソディの上演のためだった。両作品は、ジョン・エリオット・ガ―ディナー指揮で、オーケストラ・レヴォルチオネール・エ・ロマンティック演奏、モンテヴェルディ合唱団とソリスト。

ポーリーヌ・ヴィアルドは出演するたびに、サロンを開き、そこでは自分の作曲も披露していたが、それらは、軽やかで、ウィットに富む、生き生きとした作品であった。「エスプリの喜び」というタイトルで、メゾソプラノのヴィヴィカ・ジェノとピアノにカルロス・アラゴンで、舞台上で**リートのマチネ**として上演された。

138 回もポーリーヌ・ヴィアルドは、フランスで初めて女性でオルフェオ役を歌い、大成功した。聖霊降臨祭の日に祝祭大劇場で上演されるエクトル・ベルリオーズの「オルフェオ」では、マリアンヌ・クレバッサがこの役を歌うが、彼女は 2017 年にザルツブルク音楽祭での「皇帝ティートの慈悲」でセスト役を歌い大賛辞を受けた。ジョン・ノイマイヤーがこの神話のストーリーを現代バレエとして振付け、この**バレエオペラ**に歌手に追加して二人のダンサーも登場する：エドヴィン・レヴァツォフ（オルフェオ）とアンナ・ラウデレ（エウリディーチェ）。ジャンルーカ・カプアーノが指揮、演奏はカメラータ・ザルツブルク、ザルツブルク・バッハ合唱団。

聖霊降臨祭音楽祭 2020 は月曜日の夜、祝祭大劇場での**祝賀コンサート**で終了する。「*家族の出来事*」というコンサートで、ガルシア・ダイナスティに捧げる。マキシム・ヴェゲーロフがサンカルロ歌劇場管弦楽団をヴァイオリンで指揮振りし、ピアノはカティア・ブニアティシヴィリ、チェロにユリア・ハーガ―。

チェチーリア・バルトリ　ザルツブルク聖霊降臨祭音楽祭

2012 年よりチェチーリア・バルトリは、ザルツブルク聖霊降臨祭音楽祭の芸術監督として、女性を中心に据えたプログラムを形成している。

2012 年のテーマは**クレオパトラ** – チェチーリア・バルトリがヘンデルの「エジプトのジュリアス・シーザー」のエジプトの女王役を歌った。

ザルツブルク聖霊降臨祭音楽祭 2013 の主要テーマは **犠牲**。ヴィンチェンツォ・ベリーニの「ノルマ」の舞台での新演出は 2014 年にロンドンの国際オペラ賞で最高の新プロダクションとして受賞した。

ロッシーニ・フェスティバルが 2014 年に行われ – **ロッシニッシモ**がこの年のモットーで、チェチーリア・バルトリは新プロダクションの「チェネレントラ」の主役を歌った。

私は全ての神々を呼ぶ が聖霊降臨祭音楽祭 2015 年のテーマで、クリストフ・ヴィリバルト・グルックの「トリードのイフィジェイー」は全公演、スタンディング・オーヴェーションであった。

2016 年は**ロミオとジュリエット**の歴史で、聖霊降臨祭音楽祭のプログラムからウェストサイドストーリーへと赤い糸で結ばれているような新演出。

哀愁の喜び – このテーマで 2017 年はゲオルク・フリードリヒ・ヘンデルの「アリオダンテ」が上演され、チェチーリア・バルトリがタイトルロールを歌った。

2018 年はジョアキーオ・ロッシーニの没後 150 年。ザルツブルク聖霊降臨祭音楽祭 2018 はロッシーニを記念して **1868 年 – 時代の懸け橋** をモットーとした。音楽喜劇「アルジェのイタリア女」では、チェチーリア・バルトリがイザベッラ役を歌った。

2019 年は **天上の声** ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデルの「アルチーナ」がザルツブルク聖霊降臨祭音楽祭の中心となり、カストラートとの対決。

©Tourismus Salzburg

連絡先 Contact

Salzburg Festival Fund

Hofstallgasse 1
5020 Salzburg

www.salzburgfestival.at

チケット・オフィス Ticket Office

Tel. +43 662 8045 – 500

info@salzburgfestival.at

プレス & 広報 Press & PR

Tel. +43 662 8045 – 351

presse@salzburgfestival.at

事業開発 & スポンサリング Development & Sponsoring

Tel. +43 662 8045 – 490

sponsoring@salzburgfestival.at

Audi SIEMENS Ingenuity for life KÜHNE-STIFTUNG ROLEX

ザルツブルク音楽祭 100 周年記念プログラムの
詳細のダウンロードはこちらから:

www.sf100.at

全体プログラムは 2019 年 11 月 13 日よりご覧いただけます

パンフレットのダウンロードはこちらから:

www.sf100.at/presentations

SALZBURGER
FESTSPIELE
UNIVERSITÄTSBIBLIOTHEK
DIE ZAUBERFLÖTE
L'ITALIANA IN ALGERI
L'INCORONAZIONE DI POPPEA
GROSSES FESTSPIELHAUS

©SF/Leo